

古文

古文 日々の思い [随筆]

徒然草 つれづれぐさ 兼好法師 けんかうほふし

今日はそのことをなさんと思へど



講師 山本章博

学習のねらい

『徒然草』第百八十九段「今日はそのことをなさんと思へど」を読みます。この段には、兼好法師の人生に対する見方が明確に述べられています。これまでの人生経験を振り返りながら、兼好法師の考え方を理解していきましよう。

● 学習のポイント ●

- 〈一〉 作者の世の中の見方を理解する
- 〈二〉 作者の主張を考える
- 〈三〉 自分の人生経験を振り返る

■ 作者の世の中の見方を理解する

やろうと思っていたことが、急用が入ってできなくなったり、待っている人が来なくて、待っていない人が来たり、面倒だと思っていたことは、意外とたいしたことはなくて、簡単なはずだと思っていたことが、面倒でつらいことがある。人生は、思った通りに行かないことが多くあるものと、兼好は考えています。

【重要語句】

- ・頼む……………期待する。

【重要な助動詞】

思ひ 寄ら 動詞・未然形 助動詞・打消

ぬ 道ばかりは 動詞・連用形

かなひ 助動詞・完了

■ 作者の主張を考える

人生は、思い通りにならないことがあるが、思い通りになることもある。結局、先のことは、不確かで分からない。それを心得ることだけが間違いのないことだと、兼好は主張します。

【重要語句】

- ・あらまし……………こうあってほしいという願い。
- ・不定……………不確かで定め難いこと。

■自分の人生経験を振り返る

思い通りにいったこと、思い通りにならなかったこと、自分自身のこれまでの人生経験を振り返ってみましょう。その時にどのような思いになったか。なぜ、兼好は、不確かで分からないと心得ることだけが間違いないことだ、と主張するのか。その理由を考えてみましょう。

【参考】

『徒然草』第七段（抜粋）

「世は定めなきこそ、いみじけれ。」

【現代語訳】

世の中はどのようなか分からないからこそ、大変すばらしいのだ。



古文

徒然草

兼好法師

今日はそのことをなさんと思へど

講師
山本章博

今日はそのことをなさんと思へど、あらぬ急ぎまづ出で来てまぎれ暮らし、待つ人は障りありて、頼めぬ人は来たり。頼みたる方のことは違ひて、思ひ寄らぬ道ばかりはかなひぬ。煩はしかりつることは、ことなくて、易かるべきことは、いと心苦し。日々に過ぎゆくさま、かねて思ひつるには似ず。一年のうちもかくのごとし。一生の間もまたしかなり。かねてのあらまし、みな違ひゆくかと思ふに、おのづから違はぬこともあれば、いよいよものは定め難し。不定と心得ぬるのみ、まことに違はず。

【第百八十九段】

【現代語訳】

今日はそのことをやろうと思うけれど、他の急用が先に出来て（それに）紛れて一日を過ごし、待っている人は差し障りがある（来ず）、（来ることを）期待していない人が来てしまう。期待している方面のことはその通りにならず、思いも寄らない方面のことばかりがかなってしまふ。面倒だと思つていたことは、何ともなくて、簡単なはずのことは、とても面倒でつらい。一日一日が過ぎていく様は、前から思っていたこととは違っている。一年のうちもこれを同じだ。一生の間もまたそうだ。

前からこうあつてほしいと思つていたことは、みな違つてしまふかと思つと、たまには違わないこともあるので、いよいよ物事はあらかじめ決めたい。不確かで分からないと心得ることだけが、真実で間違いがない。